

有限会社 桜庭工務店

F 様邸

ユーザー訪問

DATA

青森市石江

2014年11月竣工

■延べ床面積/50.0坪(165.62㎡)

■使用青森県産材/スギ(床、柱、梁)など。



新青森駅に間もなく到着する新幹線の車窓から、その家は見えた。窓外を過ぎ去る、雪をのせた家々の屋根の向こうに、白色から浮き立つようなモスグリーンの外壁が目にとまった。1週間前に取材で訪ねたF様邸だった。車道から折れ、アプローチの緩い勾配を上っていった高台にF様邸は建っている。取材の日、ご主人が2階のリビングに案内してくれた。高台で、その2階だから、さすがに周囲に建物はなく採光充分である。「陽当た



余分な機能をはぶいたオーダーメイドのシンプルな流し台

りもそうですが、ここからの眺めがいいんです」と窓のそばに立ち、「新幹線が見えるんですよ」とご主人が指さした。——そのことが思い浮かんだら、F様邸の窓辺で、ご主人もこちらの新幹線を眺めているような気がした。

要望聞き入れた家づくり 目指した本来の注文建築

奥様の話 施主の要望を聞き入れて家を建てるのが本来の注文建築のはずなのに、いつ

間にか住宅メーカー主導になってしまっています。キッチンや照明器具を選ぶにしても、パッケージ化された中から選ぶようになっていくから、「自由な選択」からは離れてしまっているんです。自分の家なのだから、広い対象の中から選択してわが家に採り入れる、という本来の家づくりをしようと思いましたが、

ご主人の話 要望とは、自分たちがインターネットで照明器具を購入してそれを付けてもらうとか、キッチンは既製品じゃなく注文して製作してもらおうとか、そういったことです。実際に、住宅会社や工務店にそれを聞いてみたら、「出来ない」



手作り感あふれる木のポスト



インターネットで取り寄せたレトロな照明が木の温もりに調和したリビング

と数社から断られました。決して無理難題を要望しているわけではないと思うんだけど、なぜ出来ないんですかね。施主と膝を突き合わせてじっくりと作り上げるのが注文建築だったはずなのに、会社主導、つまり

企業の都合が先に立ってしまっているんですよ。それで、本来の注文建築に一から取り組もうと、まず家を設計する建築士をインターネットで探すことから始めたんです。検索はもっぱら二男が引き受けてくれました。

行き着いたのが、弘前市に事務所を構える一級建築士でした。訪ねて行って、こういう家づくりをしたい、と要望をお話ししたら、断った住宅会社とはまるで逆に、難なくうなずいてくれましたよ。誠実そうなその建築

士が紹介してくれたのが、桜庭さん（桜庭尚利社長）だったんです。

木を使いシンプルに 合板仕上げで木質感

——内装が合板の仕上げになっ
ていますね。

奥様の話 ビニールクロスが厭だということもありましたけど、合板をそのまま見せたほうが、木の雰囲気に含まれると思わせてね。「木をたくさん使って、シンプルに」が、目指した家づくりのコンセプトです。



内装は合板をそのまま見せてシンプルな仕上げに



新幹線が見える2階のリビングに面した広々としたベランダ

キッチンもそうで、メーカー品ではなく、キッチンの天端^{てんば}だけをオーダーして作ってもらったのは、既製品だと要らない付属品が付いているので、使う機能だけを備えたシンプルな流し台にしたかったからです。普通ならカタログか、実際にショールームに行つて選べばそれで済むところでしょうけどね。こういう施主の細かな要望に対しても桜庭さんは、ほんとうにきちんとかんがえてくれました。

ご主人の話 今回の家づくり
で大活躍したのがパソコンです。インターネットつて驚くべき情報量だと改めて感じましたね。なんとか工法とか、基礎の打ち方まで調べました。というのも、青森市の街なかにある、これまで住んでいた築40年になる家がシロアリに入られて、たいへんな思いをしたので、自分の家は自分で守ろうと思ったからなんです。いくら基礎だけ丈夫でも、シロアリの寄り付かない家にしなければ長持ちしませんからね。木材についても



これもネットで取り寄せた洗面台が取り付けられた脱衣室



シンプルな合板仕上げだからこそ内装の模様替えは自由にでき、新築気分が味わえる

ネットで調べましたし、実際に材木店に見に行ってみました。よく耳にする「ベイマツ」とはどんな木なんだろうって。やはり実物に触れてこそ「見た」ことになりますから。何も勉強しないで一切工務店任せにしてしまふところに後悔が生まれると思うんです。

奥様の話 照明器具ばかりでなく洗面台もトイレもネットで取り寄せて、付けてもらいました。自分の家に付けたいものを付けてこそ本来の注文建築です。桜庭さんは厭な顔一つしませんでしたよ。

それと、わたしと息子とでスギの床板に自然塗料を塗りました。「やってみませんか」って桜庭さんが勧めてくれたんです。要望を聞き入れてくれたほかに、「施工参加」も体験できた家づくりでした。

【間取り】1階はご主人のアトリエ、二男の部屋、物置、作業場。2階はLDK、奥様の部屋、水回り、長男の部屋。



『気創りの家』

有限会社 桜庭工務店

弘前市大字外崎4丁目2-6

TEL.0172-27-4320 FAX.0172-27-4325

<http://saku-kou.com>

E-mail:sakura52@amber.plala.or.jp



せんだい建設 株式会社

相馬 様邸

ユーザー訪問

DATA

平川市本町

2014年8月竣工

■床面積／平屋建て35.0坪(115.93㎡)

■使用青森県産材／スギ(柱、一部内装)、カラマツ(梁)など。



大雪が降り続く12月7日、午前10時、相馬様邸の前で仙台慎吾専務と落ち合った。インターホンを鳴らすと、内側で犬の鳴き声が上がった。開いたドアから、2匹の犬に引かれるようにして笑顔の奥様が現われた。これから「家の本」(『青森県産材でエコな家づくり』V)の取材があるので、その間、玄関先に停めている車に移動してもらおうというわけである。雪をかぶった車のドアを開けると、ワンちゃんたちがさっと乗り込んだ。「中でちょっと待っててね」と声をかける奥様を、ガラス越しに見つめるワンちゃんたちはじつに家族であった。

「地元の工務店がいい」 すぐ来てくれる安心感

奥様の話 職場の近くに引っ越しするために、2軒目の家を建てることにしました。主人の職場が平川市で、自宅は弘前市にありましたが、建ててから17年の



白壁と木目が美しいコントラストを織りなす玄関ホール

間にだんだんと通勤が堪えるようになってきたので、平川に土地を買って新しく建てよう、ということになったんです。団地内にちょうど良い土地が見つかり、工務店も、主人が社長さん(仙台芳美社長)と知り合いの「せんだい建設」に頼むと決めていましたから、割とすんなり計画が実現したという感じですね。

—— 最初の家を建てた工務店に頼むという選択肢は？

奥様の話 輸入住宅のツーバイフォーだったんですが、2軒目の家は、大工さんが木で建てる昔ながらの木造住宅にしたという思いがありました。

—— せんだい建設の住宅は見学されましたか。

奥様の話 「今度ここで見学会がありますから」って、社長さんが声をかけてくれたんです。その家のキッチンがすごく気に入りました。キッチンの設備ではなく、壁に貼ってあったモザ



ご主人の要望でリビングの床は天井が高くなるようにキッチンより一段低くしてある



ワンちゃんが傷をつけてもいように腰壁にスギの羽目板が張られている

イクタイルを、です。「お施主様の注文でこのモザイクタイルを貼りました」という説明を聞いて、「あ、これが注文住宅なんだ」と、すごく新鮮に感じました。ツブバイフォアのときには、注文できるといっても、会社側で用意してあるパターン化した中から色とか柄とかを選ばなければならなかったので、「自由を選ぶ」という感じはなかったですから。それで「お施主様の注文」で貼ったというモザイクタイルが新鮮に見えたんで

しよう。

——ご主人と仙台社長は以前のの知り合いだったのですか。

奥様の話 5年ほど前にライオンズクラブで知り合ったそうです。建てるなら「地元の工務店がいい」と、わたしも主人も同意見でしたので、主人が気の合う社長さんに頼むことに異存はありませんでした。近くの工務店だと、何かあったときにすぐに来てくれる安心感がありますよね。

**柱が一杯立っている
見るからに頑丈そう**

——土地はいつ購入されましたか。

奥様の話 昨年の8月です。仙台社長に正式に依頼したのが



洗面室にもスギの羽目板が張られている

1か月後の9月でした。間取りは、あらかじめ主人が考えていたものをベースにして打ち合わせしました。リビングの床がキッチンから一段低くなっているのは、その分、天井を高くしたいという主人の要望です。わたしは、ワンちゃんが駆け回って壁に傷が付いてもいいように

リビングの腰壁に板を張ってもらいました。青森県産のスギの羽目板だそうです。室内全体のバランスが取れるようにと専務さんが洗面室にも羽目板を張ってくれました。スギの木肌つて目に柔らかだし、清潔感もあってとても気に入っています。

仙台専務の話 相馬様邸は国の『地域型住宅ブランド化事業』を活用して建てました。これは国土交通省の補助事業で、県産材を使った地域の気候・風土に合う長期優良住宅の建設を支援することで、地域経済の活性化と、森林整備の促進を目的としています。そういう趣



キッチンから廊下を通過して左奥の和室へ



炬が切っている和室





リビングの外に設けたワンちゃんたちの遊び場にもなる板塀で囲まれたスペース。雪の下はコンクリート敷きになっている

旨の国の補助を活用している分、木材を通常よりも多く使っています。

奥様の話 工事が始まって、ちよつと寄つてみたら、大工さんが柱を立てているところでした。それを見て、念願の「木の家」で自宅を建てているんだな、という実感がわきました。やつぱり大工さんが木で建てるのが日本の家ですよ。それと、柱の数の多かつたこと。見るからに頑丈そうでした。

—— 外の木の塀で囲った部分はウッドデッキですか。

奥様の話 ワンちゃんたちの遊び場です。今は雪が積もっていて見えませんが、下は水で洗えるようにコンクリートにしてあります。夏はバーベキューもできますし、屋根をかければそこにもう一部屋できるなんて主人は気の早いことを言っていますよ。

【間取り】1階はLDK。炉が切つてある和室。主寝室。水回り。



せんだい建設株式会社

平川市高畑前田155-2
TEL.0172-44-8545 FAX.0172-44-8547
http://www.sendaikensetu.com
E-mail: info@sendaikensetu.com



玉田工務所

S 様邸

ユーザー訪問

DATA

弘前市清水森

2009年2月竣工

■延べ床面積/45.0坪(149.05㎡)

■使用青森県産材/スギ(床、外壁)など。



S様の家づくりは「見る」ことから始まった。休日にご夫婦で新興住宅地を車で訪れては、建ち並ぶ真新しい家々を車内から見物した。弘前市の昂^{すば}団地(旧相馬村)まで足をのばした際に、1軒の家に目がとまった。黒い板壁のシンプルな外観が、ご主人の要望する「木の家」と、奥様の「カフェみたいの家」のイメージにぴったり重なった。こういう家がいい——と、停めた車の中から眺めた。後日、S様が住宅雑誌をめくっていると、車から見たままの家が載っていた。あ、これ、と思わず写真を指差した。建てたのが玉田工務所だと知った。

住んでみて高断熱実感 室内は20度超せば暑い

S様の話 さっそくインターネットで玉田工務所を検索してみました。ホームページに完成見学会の案内が載っていて、

希望者は玉田さん(玉田健悦棟梁)の携帯に連絡するようにとあったので、電話して申し込みました。玉田さんとはその見学会で初めてお会いしました。住宅会社の愛想だけはいい営業マンに比べれば、口数の多くない、渋い感じの人という印象でしたが、しっかりと家を建ててくれそうな気骨ある職人の雰囲気伝わってきましたね。昂団地で見つけた家とどこか似ていました。

——建てて何年になりますか。

S様の話 6年になります。やんちゃ盛りの子供たちがいるので、竣工当初は真新しかったスギの床板もさすがに表面はキズが増えましたけど、家の中の暖かさは6年間ずうっと快適ですよ。真冬でも、南側の窓から陽が射せば暖房はつけなくても過ごせます。主暖房はポイラーを使ったパネルヒーターで、補助暖房として薪ストーブ



ストーブにカメラを向けると、S様が薪をくべて炎を大きくしてくれた



高断熱で夏涼しく冬暖かいリビング

を設置したんですが、わが家では室内温度が20度を超えると暑いくらいで、陽が入ればそれ以上に上がってしまうから暖房をつけなくても済みます。それは大人にとっては快適なことだけど、子供たちには「寒さ」を体験させたほうが自然だし、体

の抵抗力も増すだろうと思っ
て最近では暖房を切ったりしてい
るんです。

——逆は夏は涼しいのではな
いですか。

S様の話 真夏でもエアコン
をつけたことはありません。冬
だと太陽の位置が低くなって

窓ガラスからリビングに射し
込みますが、夏の陽射しは、屋
根の軒先に遮られます。軒がそ
れ以上に深いと室内が暗くな
るし、短いと陽が入るところ
を、玉田さんがちょうどいい
具合に軒の出を調節してくれ
ました。そういうところはやは



陽が入り省エネルギー効果が期待できる大きな窓

り職人でないと分かりません
ね。住んでみて、玉田さんが建
てる前に熱心に話していた「省
エネルギーの重要性」にうなず
かされた思いがしました。

玉田棟梁の話 土地の南側に
家が建っていないと、見晴らし
が良ければ、リビングに開口の
広い窓を付けるプランを薦め
ることにしています。S様の土
地がまさにそうで、南側には道
路が接していて、その向こうは
一面のリンゴ園ですから、大き
な窓を付ければ存分に太陽光
を採り入れることができます。



落ち着いた佇まいの和室。納戸をリフォームしたとは思えない

自然エネルギーを暖房に活用すれば、その分省エネルギーになりますし、生活から排出される二酸化炭素(CO₂)の削減にもつながります。

家づくりは今、省エネと低炭素化の時代で、改正省エネ法で引き上げられた断熱基準が2020年度には一般住宅に義務化されるので、それに先駆けて、外壁の断熱を200ミリ、屋根断熱を300ミリにする“付加断熱”をオプションとして薦めることにしています。

「見た瞬間、あ、これ」 この家建てる工務店に

—— 昴団地で見つけた家が
“運命の出会い”だったわけ
ですね。

S様の話 見た瞬間、あ、これだ、と思いましたね。家づくりに対して私も妻も特にこれといった強い要望はなかったんですが、挙げるとすれば私は「木の家と、薪ストーブ」、妻は「カフェみたいな家」でした。頭に描

いているイメージって言葉では表現しにくいから、実際に見てみようかと車で団地を訪れてみていたんです。昴団地で見た家は板張りでいかにも“木の家”だし、黒っぽい外観が“カフェ”みたいで、私ら夫婦の要望を形にしたような家でした。玉田さんと会う前にその時点で「この家を建てる工務店に頼む」と決めていました。

玉田棟梁の話 その家は、玉田工務所が施工した「津軽の家」の第1号なんです。10数年前に建てました。外壁は黒いスギ板張り、内観は「茶系」の床板と腰壁、それに「白」の漆喰壁でまと



渋い色調の“玉田カラー”でまとめられたリビング



屋根裏部屋のような雰囲気がただよ2階の子供部屋



ヒバの浴室は心まで癒してくれる

めた洗い色調が特徴です。

S 様の話 その洗い「玉田カラー」に私も妻も魅了されたんですよ。

—— 2階の2室はどちらも子供部屋ですか。

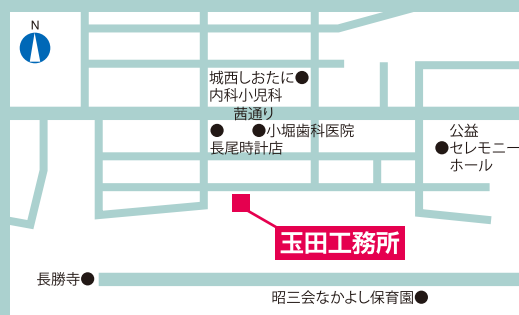
S 様の話 そうです。男の子と女の子との2室に分けただけで、3人いる男の子たちの部屋は広めにしておきに使わせています。年頃になればそれぞれ自分で自分の空間を確保するようになるでしょうから。人間は一人3畳あれば暮らせるんですよ。もつともそれは6畳間で2人で使っていた私の大学の寮での体験ですけどね。

子供部屋の床もスギの無垢材だから真冬でも裸足で走り回っていますよ。のびのびと元気に育ってくれば。そのためにも暖房を切って「寒さ」を体験させることも愛のムチです。

【間取り】1階はLDK。主寝室。納戸をリフォームした和室。水回り。2階は子供部屋。

“津軽の家” 玉田工務所

弘前市大字南城西2-7-4
TEL.090-2604-2967
<http://www.tamada.e-arc.jp/>
E-mail : sumai@tamada.e-arc.jp





1952 HINOKIYA

一級建築士事務所

S 様邸

ユーザー訪問

DATA

八戸市

2014年7月竣工

■延べ床面積/38.8坪(128.26㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、1階床、天井、大黒柱、建具、外壁一部)、スギ(柱、階段、2階床)など。

カーナビが案内してくれた住宅地の一角に、ひと目で新築と分かる真新しい建物が目にとまった。S様邸である。玄関周りに張っている板はヒバだ。外壁の黒色に対し、ヒバの木肌が外観を引き締めるポイントになっている。片流れの屋根から突き出ている煙突は薪ストーブだ。

あいにく曇り空なので、次回、晴天時に撮る外観の角度をカメラで探っていると、近づいてきた車の運転席に^{かほま}椛澤卓馬氏の笑顔が見えた。1952 HINOKIYA 一級建築士事務所の代表である。ヒバやスギなど人肌に優しい無垢の県産材使用と、大工の技を生かした家づくりが椛澤氏のこだわり。今回ご紹介するS様邸も、構造材に内装材に建具にと無垢材を多用した木の家だ。ヒバ製の玄関ドアから中に入ると、床に張られたヒバの清潔な明るさとともに、思わず吸い込む清々

しい香りが迎えてくれた。

明るいヒバがもてなす
スギの良さは柔らかさ

椛澤氏の話 新築住宅を見に来ませんか——とS様にお声をかけたのが、3年前(2011年)のことです。その年の暮れに、当社の現場が三沢市内に完成し、S様を含め30人ほどを



明るいヒバの色と薪ストーブの黒が美しいコントラストを描き出しているリビング

招待したのです。S様はご家族4人で来てくれました。当時S様は、借家に住んでおられましたが、いずれ新築の計画がある、とはご本人から聞いていました。実はS様は高校の同級生で、今もたまに居酒屋あたりで一献の間柄なんです。

三沢の住宅を一目見て、S様も奥様も気に入ってくれた様子でした。ヒバ独特の洗われるような清々しい香りには、気持ち明るくさせる力もあるんじゃないでしょうか。S様も奥様も、そんな表情で室内を見学されていました。この家を見学してS様は、木の家”に関心を持つようになったようです。

——見学されたあと、すぐに間取りの打ち合わせになったのでしようか。

椛澤氏の話 いや、1年くらい経ってからでしたね。少し時間は空きました。



森に入ったような清々しいヒバの香りで迎え入れるリビング。あえて板の節を見せることによって自然味が増している



2階の床には冬でも温かいスギを使用

だが、その間、S様も奥様も他社の見学会には一度も行っていないと話していました。いくら高校の同級生とはいえ、家は一生ものですから、1社だけでな

く、他にもいろいろ見たほうがいいと考えるのは普通のことです。そこは割り切っているつもりですが、三沢の現場を1軒見ただけで当社に依頼してくれ

たのですから、正直、嬉しかったですね。信頼されることは、造り手の張り合いにつながります。きっとS様の満足する家を建てるぞ、って気合が入りましたよ。

手や足を通じて伝わる 無垢の木肌のぬくもり

——1階がヒバ、2階がスギと使い分けられているのはなぜですか。

椀澤氏の話 リビングはご家族だけでなくお客様も迎え入れる空間ですから、明るく清潔感のあるヒバを使うようにしています。森に入つたような清々しい

香り。それもまた、もてなしの一つです。主寝室や子供部屋が主体となる2階は、木肌が柔らかなスギが適材です。真冬に裸足でも冷たくありません。

——無垢材へのこだわりをお話してください。

椀澤氏の話 住まいはこれから何十年も毎日家族が過ごす場です。毎日手で触れたり、足で歩いて触れる物は、ぬくもりがあつて、柔らかく優しい素材であつてほしいと考えているので、手や足の触れる所にはなるべく無垢の木を使うようにしています。大黒柱（6寸角のヒバ）からは、どっしりとした安心感が伝わってくるはずです。太



どっしりとした安心感を与えてリビングに立つ6寸角のヒバの大黒柱



床同様、リビングの天井にもヒバが使われている



玄関に立つと、板敷きの廊下が奥へ誘う



ロフトもある子供部屋。可動収納で区切っても、また1室で開放的にも使える

い木が暮らしを支えてくれているような安心感。そこが自然の木ならではの存在感ですね。

また無垢材は普遍的な素材なので、何十年経っても流行に流されることがありません。無垢材はキズがついたり、変色したりしてもそれが「味」になり、住まいとしての成長の証にもなります。

家を建てていただいたことで、今後S様とは同級生としてだけでなく、家のメンテナンスも含めた長いお付き合いになるわけです。そうした関係を築けるところも地元同士の良いところですね。

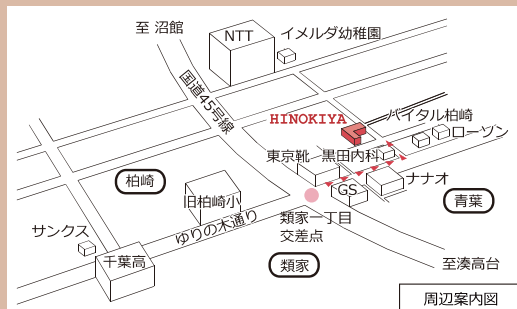
【間取り】1階は、玄関を東に取り、陽当たりの良い南面にリビング、ダイニングを配置。ダイニングの続きに設けた、床がタタキのサンルームは物干しだけでなく薪置場にも。2階は主寝室と子供部屋。子供部屋には扉付きの可動収納を置いているので、家族の成長に応じて、部屋を区切って使うことも、1室で開放的に使うこともできる。



1952 HINOKIYA

一級建築士事務所
有限会社 檜屋木材店内

八戸市柏崎三丁目8-1 3
TEL.0178-43-3848 FAX.0178-41-1002
<http://facebook.com/hinokiya>
E-mail: 1952hinokiya@gmail.com



株式会社 ミヨシプラス

田村 正剛 様邸

ユーザー訪問

DATA

八戸市八幡

2014年4月竣工

■延べ床面積/48.0坪(158.99㎡)

■使用青森県産材/スギ(柱)、アカマツ(梁)など。



屋根の上に、もう一つ、小さな屋根が載っている。住宅街の路地の前方に見えている、搭屋(ペントハウス)のあるその建物が、(株)ミヨシプラス開催の完成見学会(2014年4月)の会場だ。

玄関ドアを開けて中に入ると、「素足、靴下のままお下がり下さい。天然無垢材の感触を「ご体感下さい」と書かれた案内板が窓の柵に置かれてあった。足裏から伝わってくる無垢材特有の柔らかな温かさ。船を想わせる二つの丸窓から陽光が射し込む吹き抜けのリビングを見学していると、施主の田村正剛様(まひら)がお見えになった。見学会の最中に取材を行うのがユニークなところ。漆戸悟社長が見学者を前に健康に良い無垢材の特性を熱弁するかたわら、リビングのコーナーのテーブルに向かい合って、田村様がミヨシプラスに依頼した経緯をうかがった。

出会は情報紙の記事健康にこだわるミヨシ

ご主人の話 家を建てようと考え出したのは4年前からです。各社の完成見学会を片っ端から見て歩きました。50軒くらいは見ましたね。住宅展示場よりは、実際にそこに住むお客様の家を見学するほうが身近に参考になります。見ているうちに「だんだんとこんな家を建てたい」というイメージが絞り込まれてきました。それは、「木の



2階ホールに吊るされたハンモックで遊ぶ仲良しの姉弟

家」です。玄関に入れば木の香りがし、足の裏から床板の温かさが伝わってくるような木の家。特に妻は冷え性なものだから、冬にスリッパをはかなくても冷たくない「無垢材」の床が第一条件になりました。家のポストに、住宅の情報紙が入っていたのはちょうどその頃でした。戸別配布のフリーペーパーですね。そこに「無垢の家」の記事が載っていたのです。「ミヨシプラス」を初めて知りました。

——見学会の案内のような内

容でしたか。

「ご主人の話 そうじゃなく、家づくりの思い」が書かれてあったんです。企業姿勢ですね。なぜ「無垢材」を使った家づくりにこだわるのか。その根本には「健康」に対する配慮が感じられました。土台に塗られた防腐剤や、工場で貼り合わせた



住む人の「健康」を配慮して床と腰壁にはスギの無垢材が使われている

化粧合板から発生する化学物質が健康にもたらす悪影響。体にいいわけがない。それに対して自然の無垢材には柔らかな温かさがある。読んでいて、うなずかされました。完成見学会には50回も足を運びましたが、たいがい担当者の説明は、目に見える家のデザインとか最新の設備機器とかにウェー トが置かれていました。でも、長年暮らしていく中でいちばん大事なのは、生活空間がいかに「健康」であるか、ですよ。家族が健康でなければ家の中が暗くなってしまう。記事は、その最も大事なことに気づかせてくれました。

読んだら、社長の漆戸さんにお会いしたくなりました。電話して、事務所兼自宅を訪ねました。冬でした。薪ストーブが燃える事務所で漆戸さんは、記事に書いてあったとおりに無垢材がなぜ健康に良いのかを話してくれました。熱心に惹き込まれました。そろそろ失礼しな



きやと時計を見たら、なんと3時間もお邪魔していたのでした。

床のへこみが元に戻る 無垢材は『生きています』

——2階から階段を上がっていったところに部屋があまりすが、どなたの部屋ですか。

ご主人の話 妻です。2・5階の部屋で、「ペントハウス」って呼んでいます。ペントハウスとは、高層建築の最上階にある住戸という意味なんです。隠れ家っぽい、ひとりで静かに過ごせる空間が妻の要望だったんで



暖かな炎が目心地よいペレットストーブ

す。斜めの勾配天井が、いかにも隠れ家風で、静かな『自分の時間』を持つには格好の雰囲気があります。その真下の、天井の低い空間は、用途としては収納スペースになるのでしょーけど、当面は2人の子供たちの遊び場ですね。完成した家を家族で見に来たときには、5年生の娘と5歳の息子がそこで隠れん坊をしたり、家の中を絶叫しながら走り回っていましたよ。妻は、念願叶った自室のペントハウスに大満足でしたし、家族の喜ぶ姿に私も大満足でした。

漆戸社長の話 無垢材は柔ら



開放感あふれるリビングの吹き抜け



床にスギの無垢材が張られた2階ホールは子供たちの遊び場にもなっている。ハンモックもある

かいので、傷が付きやすいとい
われています。お子さんが物を
落としたりするとへこみます

が、でも、どうぞ叱らないでく
ださい。天然木には復元力があ
りますし、少々の傷は家族の歴

史でもありますから……。当社
では、床板には保温性の高いキ
リを多用していますが、特にキ
リの中には空気層がスポンジ
みたいに多く含まれていますの
で、復元力は大きいです。元に
戻るということは、つまり、生き
ていけるのです。生きている無垢
材が人肌に優しく温かく触れ
るからこそ、健康に良いわけ
です。これに対して、表面に薄い
板を貼り付けた合板フロアは
そうはいきません。堅く作った
工業製品だから傷には強い
のですが、復元力はありません。
家づくりとは、どんな家を建
てるか、ではなく、どんな暮ら
しをするか。家族の健康と笑顔
が大事——そう考えます。だか
らこそ、生きている天然木の使
用にこだわります。

【間取り】1階はLDKとご主人
の部屋。水回り。リビング上部の
吹き抜けの壁面に設けた二つの
丸窓から陽光が射し込む。2階の
ベントハウスは奥様のプライ
ベートルーム。子供部屋が2室。

いえ しあわせ ゆめ
家づくり 幸づくり 夢づくり



yumehouse
夢ハウスパートナー

八戸事務所

八戸市石堂3丁目3-9 2階

TEL.0178-80-7357 FAX.0178-80-7318

E-mail : info@miyoshiplus.jp

株式会社 ミヨシプラス



株式会社 ミヨシプラス

ユーザー座談会

自然素材の家で 健康に暮らす仲間たち



参加者



関橋 司様ご夫婦



浪打 和寿様ご夫婦



林崎 進次様ご夫婦

完成見学会が午後5時で終了した林崎進次様邸に、3組のご夫婦、浪打和寿ご夫婦、林崎

進次様ご夫婦。健康住宅工房

ライフ(株)ミヨシプラスの前身)で自宅を新築したユーザーで、(自然素材の家で健康に暮らす)をテーマに家づくりの体験を語ってもらおうと

座談会に参加していただいた。同じ会社で建てたユーザー同士とはいえ、「やあやあ」と笑顔で挨拶し合う様子は、まるで親戚のよう。OB施主がお互いに親しく付き合っていること自体珍しいに違いないが、ライフの場合は、まるで同窓会みたいにアットホームな雰囲気漂う。なぜか――。

その「鍵」として、サンタクロースの存在が浮かび上がった。

赤い服着た漆戸サンタ「縁」に感謝して訪問

林崎様の奥様 毎年クリスマスになると、サンタさんがやって来るんですよ。赤い服を着て白いヒゲをつけた「漆戸サンタ

がね。子供たちが楽しみにしているんですよ。最初にやってきたのは6年前でした。玄関に出たうちのおばあちゃん(義母)が、「サンタ来たー!」ってびっくりしちゃってね。

漆戸社長 毎年23日から25日まではサンタの服装をして回ることにしているんです。小さいお子さんを連れて見学会に来てくださった方とか、ユーザーさんのお宅をね。見学会でお会いしたのも、当社で建てていただいたのも、すべて「縁」です。その「縁」に感謝して、プレゼントを配りながら回るんですよ。

——林崎様が初めて漆戸社長とお会いしたのは7年前だそうですね。

林崎様の奥様 その頃、わたしの好きなある経営コンサルタントの本を読んでいたら、その方が「夢ハウス」で家を新築したと書いてあったんです。それで、夢ハウスがどんな会社かなとネットで検索してみると、夢

ハウスのパートナーの会社が八

戸にあると知りました。それが健康住宅工房ライフでした。さつそく訪ねて行きました。場所が分からなくて、郵便屋さん聞いて訪ね当てたところは事

務所兼モデルハウス兼自宅でした。漆戸さんは留守でしたが、息子さんがいましたので、うちの電話番号を伝えました。後で漆戸さんから電話がか

かってきましたので、ライフで建てた二世帯住宅がありましてらを見せしてほしい、とお願いしました。主人の両親と同居するので二世帯住宅にしよう

思っていたのです。漆戸さんが案内してくれた家が、関橋さんのお宅だったんですよ。

関橋様の奥様 ライフの第1

号の現場が、わが家だったんです。あのとき、実は他の工務店と話を進めていたんですけど、なんかこう早く建てようって急ぐんですよ。凶面ももう出来上がっていたんですが、「通路の幅が1メートルほど足りなくてこのままだと建築確認が取れない」と指摘してくれたのは漆戸さんでした。その工務店に不信感を覚えた反面、急がずに一歩一歩手堅く進めていく姿勢の漆戸さんに信頼感がわきましたね。

**煙草も吸わず黙々働く
施主の教頭先生が推薦**

関橋様のご主人 ライフを知ったきっかけは、戸別配布の情報紙でした。希望者には「木の家の本」を贈呈する、という広告が載っていたんです。それがライフでした。二世帯住宅を



「毎年、クリスマスになると赤い服を着た漆戸サンタがくるんですよ」と林崎様の奥様



関橋様が建てた二世帯住宅を見学して林崎様もライフに決めた

建てる計画でしたから、参考にしよう」と電話で申し込んだら、社員の方が本を届けてくれました。木の家を建てたいと思っていたし、タイミングよく広告も目に付いたのでなんか「縁」があるような気がして、ライフで建てた家を見学させてほしいと頼んだのです。そのときはまだライフは創業したばかりだから、社長の漆戸さんが以前、工務店で働いていたときに建てた住宅を見せてくれることになりました。

社員の方が案内してくれた家の施主は、小学校の教頭先生ということですが、さすが教師だけあって漆戸さんの仕事ぶりを事細かに観察していました。「煙草も吸わず、無駄口もきかず、朝早くから現場にやってくるまで黙々とよく働く人だった」としみじみと話しました。とにかくまじめによく働く、と。その時点で、漆戸さんとはまだ会っていないかったのですが、なんか親しみのようなものが

わいてきて、先生の話を聞きながらつい3時間も長居してしまいましたよ。

浪打様の奥様 昨年(2013年)建てた家は、2軒目なんです。

す。最初の家を建てたときには、まさか2軒目を建てることになるとは思っていませんでしたが、八戸駅前の区画整理で移転しなければならなくなっ

たんです。漆戸さんのことは子供の野球を通じて以前から知っていましたし、他社を見ることはせず、依頼するなら漆戸さんと迷わずストレートに決



「漆戸さんのことは子供の野球を通じて知っていました」と浪打様のご主人



子供の試合では喉を枯らして応援したという野球好きの漆戸社長(中央)

めました。おかげさまで今は快適に暮らしていますが、最初の家のときはひどかったんですよ。建てている大工が、なんか仕方なく建てているみたいな、まったく熱意が感じられなかったんです。「長いこと暮らしている家なんだからもっと魂を込めてよ」と言いましたけど、思いは伝わらず、変わりませんでした。

子供の野球が取り持つ 試合で共に喉を枯らす

浪打様のご主人 漆戸さんの長男と、うちの二男が同じ中学の野球部で、練習試合で顔を合わせているうちに自然と親しくなっていました。うちでは三番目の娘も野球部に所属していたほど家族あげての野球好きで、漆戸さんも「狂」が付くほどだから、試合では張り合うみたいに喉を枯らして応援したものです。関橋さんと、漆戸さんが縁で知り合ったんですよ。ライフの恒例行事の春のタ

ケノコ採りでも顔を合わせますしね。今年のタケノコ採りには林崎様のご主人も初めて参加されました。ライフのユーザーたちって、ほんと、つながっていますよね。

浪打様の奥様 わが家の風除室に入ると、木の香りがするんです。買いた物から帰ってくると、風除室で木の香りをひと嗅ぎしてから家の中に入ります。外出するときも、ひと嗅ぎしてから出かけます。無意識にそうしているんですよ。あ、今、嗅いだらなつて気がついたりしてね。

林崎様のご主人 ライフの完成見学会って、すでに建てたユーザーさんたちもやってきて、同窓会みたいに賑やかですよ。和気藹々として。今日の座談会も、知らない人には家族の集まりに見えるでしょうね。これまで馴染んだ社名のライフは変更になるようですけど、漆戸さんは変わらないわけです。クリスマスに漆戸さん一人で回るのはたいへんでしょうけど、

漆戸サンタがつなぐユーザーの輪がどんどん広がっていいですね。

——ありがとうございます。



恒例の春のタケノコ採りでも顔を合わせるという“つながっている”ユーザーたち

いえ しあわせ ゆめ
家づくり 幸づくり 夢づくり



yumehouse
夢ハウスパートナー

八戸事務所

八戸市石堂3丁目3-9 2階

TEL.0178-80-7357 FAX.0178-80-7318

E-mail : info@miyoshiplus.jp

株式会社 ミヨシプラス



株式会社 ミヨシプラス

林崎 進次 様邸

ユーザー訪問

DATA

八戸市是川
2014年11月竣工
■延べ床面積/52.0坪(172.24㎡)
■使用青森県産材/スギ(柱)、アカマツ(梁)
など。



林崎進次様邸で11月下旬

(2014年)に完成見学会が開かれた。次々と訪れる見学者に1階で漆戸悟社長と社員が応対に追われているので、取材は2階の子供部屋に上がってすることにした。初めて漆戸社長と知り合ってから自宅を建てるまで7年。「その間にずいぶん健康住宅工房ライフの住宅を見学させてもらいましたが」と前置きしてご主人が、「建物を見たのではなく、建て主のお顔を見てきたんですよ」と微笑んだ。そこからお話をうかがった。(林崎様邸は、(株)ミヨシプラスに社名変更する前の健康住宅工房ライフとして施工した最後の現場となる)

建物よりも施主の反応 笑顔に表われる満足感

ご主人の話 われわれは素人ですから、建物の専門的な見方は分かりませんが、見学会で



ご主人がお気に入りの天井に現わしになったアカマツの梁

建て主の方がいい笑顔をされていけば、満足しているんだな、と判断がつきます。満足感は表情に表れますからね。7年の間に20軒くらい見させてもらいましたが、皆さん、いいお顔でしたよ。

奥様の話 今度はわたしたちが次に建てる人に“満足”をバトンタッチする番です。それ

で、わが家の基礎工事から完成するまでを写真に撮っておきました。貼ったら、アルバム2冊分にもなりました。これを見れば、口で話すよりもライフさんがしっかりとした工事をしていることが伝わるはずですから。

ご主人の話 ライフから毎月送られてくる「うるるん通信」



基礎工事から完成までの写真を貼り付けたアルバム

(DM)に、完成見学会のお知らせが載っている度に、妻と見に行ったものです。会場には、すでに建てたユーザーさんたちもいらして、「またお会いしましたね」なんて笑い合ってたね、まるで同窓会です。ライフの見学

会って、アットホームな雰囲気なんです。皆さん、建物を見に行くんじゃなく、漆戸さんに会いに行くんですね。ファンなんです。私もそうだけども。

奥様の話 見学会ではよくS様ともお会いしました。S様の

お宅は、ライフで建てた第1号の現場なんです。

その二世帯住宅を見学させてもらった7年前から、わたしたちも「漆戸さんの追っかけ」が始まったんです。

——そもそもライフを知ったきっかけは？

奥様の話 本です。わたしがファンの、ある経営コンサルタンの本を読んでいたら、その方が夢ハウスで自宅を建てた、と書いてあったんです。インターネットで夢ハウスを検索してみたら、本社は新潟ですが、八戸にパートナー(代理店)があると知り



木の趣にあふれたリビングとダイニングキッチン



天井の現わしになっているアカマツの梁が目に柔らかで落ち着く

ました。それがライフでした。HPのトップに漆戸さんの顔写真が載っていて、にこっとした笑顔に親しみを覚え、実際に会いに出かけたんです。残念ながら漆戸さんはお留守でしたが、中学生だという息子さんに、自宅の電話番号を伝えて帰りました。その夜に、漆戸さんから電話がかかってきたので、「二世帯住宅を見学させてほしい」と要望すると、建てたばかりの二世帯住宅があるとのことでした。それがS様邸です。先にわたしが見させてもらい、後日、主人と一緒にまたお邪魔して、住み心地をお話ししていただきました。

「顔が見える」家づくり 施主にはいちばん安心

ご主人の話 「迷惑営業で訪問しない」のが当社のモットー、だと漆戸さんはよく言っていました。が、ほんとうにそうなんだ、とS様邸にお邪魔したとき

たのもつぱらS様のご主人で、漆戸さんとはといえば、S様のご両親とコタツで談笑していました。無垢材の心地良さ、7種類の木を使って建てている、化学薬品の臭いがまったくしない——などなど、まるでS様がライフの社員みたいに熱心に説明してくれました。

奥様の話 S様のご主人が言うには、奥様が、ライフの見学会に行く度に、「いい家だ」つてうらやまがるんだそうです。どの家を見ても、「いい家」だつて。ところが、自分の家に帰つてくると、「やっぱりわが家がいちばん」——。その気持ち、今ならよく分かりますよ。

——完成したご自宅に入ってみて、まず何を感しましたか。

ご主人の話 空気のおいしさを、ですね。林の中みたい。これまで見学させてもらった家でもずっとそれは感じていました。それと、無垢材の床の温かな感触。リビングとダイニングの天井に現わしになった木(アカマ



無垢材の床の温かな感触が足に心地よいご両親の寝室(下)と2階の子供部屋

ツ)の梁も目に柔らかかで、落ち着きます。
奥様の話 建てている最中の現場を見て、すごく安心だったのは、漆戸さんの息子さんがいたからです。7年前に会ったと

きにはまだ中学生だった息子さんが、今は一人前の大工さんになって、わが家を建ててくれました。結局、顔の見える家づくりがいちばん安心感だと実感しましたね。

【間取り】1階は、対面式のキッチン・ダイニング。窓を大きく取ったりリビング。その奥にご両親の寝室と仏間。2階は主寝室、2人のお嬢ちゃんの子供部屋、長男の子供部屋。屋根勾配を利用した物置スペースが重宝。

いえ しあわせ ゆめ
家づくり 幸づくり 夢づくり



yumehouse
 夢ハウスパートナー

株式会社 ミヨシプラス

八戸事務所

八戸市石堂3丁目3-9 2階

TEL.0178-80-7357 FAX.0178-80-7318

E-mail : info@miyoshiplus.jp

